

「第4次益田市男女共同参画計画」を策定しました

～ 性別による差別をなくし 一人ひとりが活躍し 個性と能力が輝くまち ～

令和3年度から令和7年度までの5年間の男女共同参画推進の指針となる「第4次益田市男女共同参画計画」を策定しました。

この計画に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた取組を進め、まちの将来像「ひとが育ち 輝くまち 益田」の実現を目指します。

〈計画の施策体系〉 ※市ホームページに計画書を掲載していますので、ぜひご覧ください。

基本目標（4項目）		基本施策（8項目）	
I	男女の人権の尊重	1	人権尊重の意識づくり
II	安心・安全な暮らしの実現	2	女性に対するあらゆる暴力の根絶
		3	生涯を通じた男女の健康支援
		4	安心して暮らせる環境づくり
III	あらゆる分野における女性の活躍	5	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
		6	女性の活躍推進
IV	男女共同参画社会の実現に向けた環境整備	7	男女共同参画の視点に立った各種制度の整備
		8	男女共同参画の視点に立った防災体制の確立



「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」を目指します。

「男女共同参画社会基本法」から引用

【問い合わせ先】 益田市人権センター ☎ 31-0412

日本遺産のまち益田の歩き方

第12回 萬福寺

【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会
文責：市文化財課 ☎ 31-0623

本堂右手の庫裏からは、雪舟作と伝えられる庭園が見えます。国の史跡及び名勝に指定されており、仏教の世界観である須弥山世界が表されているといわれます。季節ごとに、また、見る人の心の成長により、新しい発見のある味わい深い庭園です。

本堂左手奥の展示スペースには、古文書や仏像、駕籠などが展示されています。

本堂右手の庫裏からは、雪舟作と伝えられる庭園が見えます。国の史

清瀧山萬福寺は、時宗の寺院です。まず、西に延びる参道の端、門柱まで行ってみましょう。南北に通る道は江戸時代の山陰道で、山陰諸国を旅する多くの人が萬福寺に参詣したと思われる。

赤い門を入ると、重要文化財の本堂が見えてきます。この本堂は、応安7（1374）年の創建以来、大きく姿を変えることなくこの地にあって、益田の歴史を見守り続けてきました。正面から見ると横長の印象を受けますが、上から見るとほぼ正方形で、奥行きもしっかりあります。天正14（1586）年には瓦葺きになったことがわかっています。

本堂の中に入ると、その広さにあためて驚くと思います。柱の一つには慶應2（1866）年の石州口の戦いの際の弾痕があり、まさに歴史の生き証人です。柱は建物の大きさにふさわしい太さですが、それ以外にも瓦葺きの屋根を支える工夫が随所に見られ、建築物としての見どころも多いです。お寺の方にたずねると、詳しい話を聞くことができます。

本堂左手奥の展示スペースには、古文書や仏像、駕籠などが展示されています。

本堂右手の庫裏からは、雪舟作と伝えられる庭園が見えます。国の史跡及び名勝に指定されており、仏教の世界観である須弥山世界が表されているといわれます。季節ごとに、また、見る人の心の成長により、新しい発見のある味わい深い庭園です。

本堂右手奥の展示スペースにも貴重な文化財が多く展示されています。流仏三体像と称される仏像群は、いずれも平安仏です。「二河白道図」は、仏の導きにより怒りや貪欲に陥ることなく、極楽往生を遂げるといふ説話を絵にしたものですが、同種の図の中でも時宗の開祖一遍上人の教えを最もよく表している作品とされています。華南三彩壺は、益田氏寄進と伝わり、益田氏の茶の湯への高い関心とともに南蛮貿易への関心を示すものと考えられています。

場 東町25-33

石見交通バス各路線のバス
折戸バス停から徒歩5分



雪舟庭園を望む庫裏では、さまざまなイベントが行われている。（写真：平成27年開催「十六夜（いざよい）ノ宴」）